

## 【演題】

処方せんへの検査値添付による薬局薬剤師の疑義照会への影響について

## 【諸言】

従来、保険調剤において薬局薬剤師は処方箋に記載される処方情報、ならびに患者とのインタビューなどで得られる情報を勘案し、処方鑑査や服薬指導を実施している。

ただ、患者から得られる情報は主観的かつ不明確な点も多く、処方の根拠となる病名や検査値など、処方監査や服薬支援に重要な情報が得られないまま業務が行われている。

このような状況の中、清風薬局人吉店が立地する熊本県人吉市で地域の広域病院である独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）人吉医療センターが平成26年6月より処方箋に検査値の検査結果の添付を開始した。

当薬局でも検査値添付の処方箋の応需開始後、薬局の服薬支援や疑義照会の内容に変化が生じてきた。今回は検査値の添付が薬局薬剤師により有効な薬物療法や副作用回避に繋がった例を集計、検証したので報告する。

## 【介入方法】

H26年6月～H27年1月 8ヶ月間

## 【方法】

全受付処方せん枚数の中、検査値情報が確認出来た割合を集計

全受付処方せん枚数の中、疑義照会した割合を集計

疑義照会した処方せんの中、検査値を参考にした割合を集計

検査値を参考に疑義照会した結果、処方に何らかの変更があった割合を集計

## 【結果】

検査値確認割合：69%（1022件/3245件）、疑義照会割合：4%（151件/3245件）、検査値を参考に疑義照会した割合：6%（9件/151件）、疑義照会の結果、処方変更になった割合：89%（8件/9件）疑義照会した件で参考にした検査値と薬剤：腎機能7件（アロプリノール、ファモチジン、メトホルミン、ロキソプロフェン、シタグリプチン）肝機能1件：（ウルソデオキシコール）INR1件（ワルファリン）

## 【まとめ】

添付文書中に臨床検査値に関して定期的な検査を設けていたり、用法・用量を腎機能等の数値により分けて記載するなど、臨床検査値を確認する重要性は高まっており、今回その検査値データを元に疑義照会することで薬の適正使用、安全性の向上に貢献できることがわかった。今回疑義照会には至らなかったが、他にも外来化学療法中の患者における肝・腎機能、白血球数や好中球数といった副作用の確認なども行いやすくなり、従来の患者インタビューと合わせ、より充実した安全性の確保、有効性の向上、服薬支援を行えると考える。

## 【キーワード】